

私を語る

第31回

昭和50年 生活芸術学科卒

幼い頃より私は、家庭科の先生になりたいという夢を持っていた。当時私の周りでは女子が大学に進学することは大変なことだったため希望は叶えられず、親の望むまま花嫁修業をし、専業主婦になった。夫は転勤が多く、幼い娘を抱え何度も引っ越しを余儀なくされた。そんな中、私はもしも何かあった時には自立して家族を助けたいと思い、再び教員免許を取ることを考えるようになった。幸い夫は理解してくれ、日本女子大学通信教育課程の家政学部へ入学することができた。

夏のスクーリングや教育実習の間は娘たちを実家の母に預け、家族と離れ一人目白へ通った。家族の協力により10年かけようやく、教員免許を取得することができた。その後、教員免許が役立つ「もしもの時」はなかったが、通信を卒業できたことは私の基礎となり、生きる大きな力になっている。

ある時、教師になりたい夢とその苦勞話を応募したところその文章が思いがけず入選した。そのことをきっかけに、私は文筆の道へと進むようになった。その道は険しい遠い道のりであったが、諦めない信念で今でも一步一步前進するよう努力している。また、日本女子大学で学んだお陰で全国に多くの友人知人ができた。いずれの道も人との出会いが私の人生を豊かにしてくれた。

これからもこのご縁を大切にし、自分の選んだこの道で人生の喜怒哀楽の機微を人の心に届けられたらと思っている。